

日本語と中国語の指示詞に関する一考察
— 「ア系」と “这” が対応する場合を中心に —
**An Analysis of Demonstratives in Japanese and Chinese :
A Comparison of Japanese "A" and Chinese "Zhe"**

日下部 直美
Naomi KUSAKABE

Abstract

Japanese has three demonstratives: the Ko system, the So system and the A system. Chinese has two: Zhe and Na. This paper considers some cases of how these systems relate to each other in conversations. The paper will look at specific occasions and situations from the viewpoint of the speaker, the distance between the speaker and the object and other various elements and how they are related. In addition, this paper attempts to analyze whether it is a common understanding that the system used depends on various factors such as distance to the speaker or listener or whether there is a listener. There can also be psychological distances involved. This paper will also look at the various factors to analyze the conversation and uses the conventions of conversational linguistics to its analysis.

キーワード：指示詞、場面、共通理解、心理的距離

I. 本稿の目的

日本語における指示詞は「コ系」、「ソ系」、「ア系」の三つがあり、中国語においては“这”、“那”の二つがある。中国語教育の現場ではテキストなどにおいて、「コ系」と一部の「ソ系」が“这”と対応し、「ソ系」と「ア系」が“那”と対応すると示されることが多い。先行研究においても、「ソ系」と“这”の対応について考察したものはいくつか存在するが、一方で、讃井（1988）や木村（2012）においては、「ア系」が“这”と対応する場合も指摘されている。

本稿では、「ア系」が“这”に対応する場合について以下に具体例を挙げ、考察を行う。指示詞の用いられる例文は、場面やシチュエーション、話し手と対象との距離、関係、話し手の視点、動作など、様々な要素が関連しているため、ストーリー性があり、映像として視覚で認識できるものとして、全て中国大陸のテレビドラマから引用した。

日本語の「ア系」については、吉本（1992）によると、現場指示の用法では「会話空間の外の事物を指示」する。文脈指示では「話し手・聞き手双方の出来事記憶中に存在する事物を指示」する。これに加えて、聞き手が対象について明らかに知らない場合においては聞き手に対する非難、また話し手の感情移入などの語調を伴うとのことである¹。この「話し手と聞き手双方の出来事記憶中に存在する事物」という点においては、話し手と聞き手

¹ 吉本（1992） p.110、117。

の間で「共通理解」になっているということである。この点については中国語においても発話現場に存在しない対象について“这”を用いる場合があることから、日本語の「ア系」と対応していると考えられる。

本稿では、対象が発話現場に存在していない場合において、話し手と聞き手の間で「共通理解」となっているか、聞き手が存在しているか、話し手と対象との心理的距離といった点に着目し、分析を試みる。

II. 先行研究

中国語の“这”が日本語の「ア系」と表現される場合について、讚井（1988）では以下のような2例が挙げられている（以下、例文（1）、（2）は讚井（1988）からの引用。体裁は引用者による）。

（1）場面：甲が遠くの丘の上にある塔を指さし、乙に話しかける。乙も丘の方を振り向いて、甲にたずねる。

甲：你看，那边儿山上有一座小塔。看见了没有？

「ほら、向こうの丘の上に小さな塔があるよ。見えたかい？」

乙：看见了。那是什么塔？

「ええ、あれは何の塔なの？」

（2）場面：状況は（1）の場面と同じ。ただし、今度は乙は丘の上の塔をちらっと見てから、また甲の方を振り向いて甲にたずねる。

乙：看见了。这塔是哪个庙的？

「ええ、あの塔はどこのお寺の塔なの？」

例文（1）の場面については、指示対象が「共通談話領域」の外にあるため“那”を用いている²。例文（2）の場面においては、指示対象が「共通談話領域」の外にあるにも関わらず“这”が用いられている。これについて、指示対象が直前の話題になっている場合、「anaphoric usage」（文脈指示）の“这”を用いることができると述べている。即ち、中国語の文脈指示においては、“这”が「ア系」と対応する場合があるといえる。

また、木村（2012）においては、「ワレの領域」という概念を用いて、「独言（独り言）」や「心理内言語」の場合に「ア系」が“这”で表現されている現象について述べている（以下、例文（3）は木村（2012）からの引用。体裁は引用者による）。

（3）天狗の子：どうもあの竹の皮包みが怪しかぞ。さっきから何やら手許に引き付けて大切にしとる。うん、いよいよあれに違いなか。（近づいて殿様の腰の面を見てびっくりする）や、おとっちゃんがおる。こらどうだろか？…

² 讚井（1988）では、中国語の通常の「対話距離」における対話での現場指示における話し手と聞き手が形成する共通の領域について「共通談話領域」としている。本稿では、発話現場に存在する事物と聞き手と話し手における共通の知識に対して「共通理解」という概念を用いる。

『彦一ばなし』)

小天狗：“这个竹皮包儿可有点奇怪，他怎么老是小心翼翼地放在手边。嗯，一定是藏在这里边啦。(走到近旁，看到侯爷挂在腰间的面具，大吃一惊)啊，爸爸在这里，怎么回事？……”

《彦市的故事》

この「ア系」が“这”で表現される点について、木村（2012）では、その注目の対象と話し手との実空間上の相対的な隔たりは捨象され、対象は総じて「近い」と認識される。この場合、独り言においても「ワレの領域」（話し手の領域）内のものとして認識される傾向が強くなると述べている。この「ワレの領域」については、相手（聞き手）の領域も含んだ「包含的視点」がとられた場合は、“这”で指示される³。また、中国語のこのような傾向に対して、日本語においては相対的な距離の表現が好まれる点についても指摘されている。

次章では、中国語の“这”が日本語の「ア系」に対応する例を挙げ、考察を行う。

Ⅲ. 考察

“这”が「ア系」に対応する例について以下に具体例を挙げる。例文は全て中国大陸のテレビドラマから引用したものであり、日本語訳は筆者による。

例文（4）は、社長が大切に保管していた「簪」を「張曉」が撮影中に何者かに盗まれ、張曉が疑われていたが、その真犯人が副社長（殷正）であったことが明らかとなった場面である。この時、話し手と聞き手にとって、対象である簪は「共通理解」のモノであるが、発話現場に存在しない。

（4）同事：張曉，你清白了…！你清白了！

「張曉、あなたの疑いが晴れたわ…！無実なのよ！」

張曉：出什么事了？

「何があったの？」

莫小荷：偷簪子的人找到了，你没事啦。

「簪を盗んだ人が捕まったのよ、もう大丈夫よ」

張曉：真的？

「本当？」

同事：今天中午你可要请客。

「今日のお昼はご馳走してね」

張曉：一定…。那偷簪子的人到底是谁？

「ええ、必ず…。それで簪を盗んだのは一体誰だったの？」

同事：你没听说吗？这簪子啊，是殷总在外面找的专业小偷偷的！这可是坚守自盗。

³ 一方、“我”と“你”が自他的に意識された「対立的視点」がとられた場合は、話し手から近距離にあるが、聞き手に属しているものは“那”で指示されるとしている（木村（2012）p.66）。

「聞いていないの？あの簞ね、殷副会長が外で雇ったコソ泥が盗んだんですって！狂言強盗だったのよ」

《步步惊情》

日本語では、話し手と聞き手が指示対象について共通の知識を持っている場合に「ア系」を用いる。中国語においても、このような場合は、対象となるモノが直前の話題になっており、また、両者の間で「共通理解」となっていることから、“这”が用いられる。

下の例文(5)は、義父を憎んでいる義理の息子である「殷正」とその母方の叔父である「殷成貴」が義父の会社を乗っ取ろうとしている場面である。両者は電話で話しており、対象である義父は発話現場に存在しない。例文(6)においても、「楚王」によって「鼻そぎの刑」にされた「魏美人」は発話現場にいない。

(5) 殷正：二叔，老头子对股票的流向已经产生怀疑了。他现在已经追查收购股票的公司注册地在泰国。

「叔父さん、じじいが株の動きに対してもう疑いを持ち始めた。今は株を購入した会社の登録地がタイだということまで調べ上げている」

殷成貴：这么快啊？我还真是低估了这个老狐狸了。

「こんなに速く？俺はあの古狐を見くびっていたぞ」

《步步惊情》

(6) 屈原：微臣听说，魏国美人不知何事触怒了大王，昨晚受了劓刑。

「聞いたところによると、魏の美人が何か大王様の怒りに触れたのか知りませんが、昨晚鼻そぎの刑を受けたとか」

楚王：是又如何？

「それがどうした？」

屈原：魏国送亲的使者尚未离开郢都，便发生这等事情，的确难堪。楚魏联盟由此可能破裂，魏国使者准备就此事递交国书，要求说明缘由，并且道歉。

「魏のお付きの使者がまだ郢都を離れていないのにこのようなことが起きてしまっっては、大変ばつが悪いこととございます。楚と魏の連盟がこの件で壊れるかもしれません。魏の使者がこの件で国書をもって理由の説明と謝罪を求めてくるつもりでございます」

楚王：哼。

「ふん」

屈原：大王，魏王的颜面的确因此而受到羞辱，大王不妨给他们一些安抚。

「大王様、魏王の面目が本件で大変損なわれてしまいましたので、大王様が納めた方がよろしいかと」

靳尚：你竟然让大王向魏王赔礼告罪。臣以为屈左徒打着合纵的幌子，让我大楚包羞忍辱，置大王的尊严于沟渠。

「大王様が魏王に対して謝罪するとは。屈左徒は合従の看板を掲げていますので、我が楚の方が恥を忍んで、大王様の沽券は放っておくということですか」

景翠：一个美人，只是割了鼻子，又不是掉了脑袋，道什么歉哪？

「一人の美人が鼻をそがれただけで、首を切られたわけでもないのに、何を謝罪すると？」

屈原：大王，此事关系重大。

「大王様、これは重大なことでございます」

楚王：够了。寡人对这个魏美人已经仁至义尽，再者说，这魏美人的事是寡人后宫的家事，与你何干啊？与你们何干？与魏国何干？与合纵何干？

「もうよい。余はあの魏美人に既に最大限の慈悲を与えたのだ。それに魏美人のことは余の後宮での家庭内のことである。お前とどんな関係があるのだ？お前たちとどんな関係があるのだ？合従と何の関係があるのだ？」

《半月传》

例文(5)、(6)の場合も、話し手と聞き手が指示対象について共通の知識を持っているため、中国語では“这”、日本語においても「ア系」が用いられている。また、例文(5)の場合、対象(殷正の義父)に対する話し手の侮りともいえる感情も含まれていると考えられる。例文(6)においても、「合従」を勧める「屈原」から「魏美人」への仕打ちに対して責められている「楚王」が、屈原の諫言を聞いていくうちに怒りの表情になっていくのが読み取れる。さらに屈原の考えに反対する他の臣下が意見を述べ、楚王の仕打ちを擁護するといったように、朝廷の場が荒れてくると、楚王の怒りが頂点に達し、その怒りが話題の対象となっている魏美人に向けられていることが分かる。讚井(1988)においても、話し手の感嘆や非難の感情表現においては、対象との距離は問題にならず、“这”を用いると指摘している。

また、下の例文(7)は「焯妃」が自分の以前の恋人であった「凌雲徹」が「皇后(如懿)」の住む「翊坤宮」に配属されたのを聞き、見に来た場面である。凌雲徹は皇后の命の恩人であり、皇帝の御前に仕える侍衛であったが、皇后との関係を皇帝に疑われ、宦官にされた。焯妃は翊坤宮の中庭にいた凌雲徹と会った後に皇后のいる部屋に入ってくる。凌雲徹はその場にはいない。

(7) 焯妃：臣妾奉命协理六宫，听说皇后娘娘这儿来了新伺候的奴才，臣妾不放心，特来看看。

「私は後宮を取り仕切る命を受けております。皇后様のところに新しくお仕えする下僕が来たと聞き、心配だったので、わざわざ見に参りました」

皇后：你倒是费心。

「気を遣わせてしまったわね」

焯妃：皇后，都是你害了凌云彻，你怎么把他害成了这个鬼样子？

「皇后様、あなた様が凌雲徹を危めたのですよ。なぜあのあのような酷い姿にってしまったのですか？」

皇后：你居然有脸来跟我说这些，若不是你背后怂恿，豫妃有那么大的本事，到皇上跟前污蔑本宫和凌云彻…。如今你倒觉得自己清白无干，来向本宫兴师问

罪。

「そなたが私によくもそのようなことを言えたものだ。そなたが裏で唆し、豫妃にあんな大それたことをさせて、陛下の御前で私と凌雲徹を辱めなければ…。今頃になって自分には罪がないと思って、私に対して罪を咎めに来たのか」

怜妃：若不是你，引得凌云彻为你动了情，他如何会背弃我，如何会引得皇上疑心和怒火，变成这个样子？我看他变成这样，我宁愿他死了。

「皇后様が、凌雲徹の気持ちを焚き付けなければ、なぜあの者が私を捨て、陛下の疑念と怒りを買って、あのような姿になったのでございましょうか？あのような姿になってしまったのなら、死んだ方がましでございます」

《如懿传》

凌雲徹に対する「処罰」については、話し手である怜妃と聞き手である皇后の両方が知っており、「共通理解」となっている。また、対象である凌雲徹はその場にはいないため、日本語では「ア系」を用いる。また、怜妃と凌雲徹は以前は恋人同士であったが、怜妃が皇帝の側室として仕えるようになってからも、怜妃は凌雲徹のことをまだ密かに想っている。怜妃は皇后を陥れるために凌雲徹を利用したが、皇帝が処罰として凌雲徹を宦官にしてしまったことにショックを受けている。話し手である怜妃は、対象である凌雲徹に対して未だ恋心を抱いているため、自分に近い存在として捉えている。即ち、心理的距離が「近い」存在であるため、自分のことのように考えていると思われる。そのため、この場合の“这”についても上に挙げた例文(5)、(6)と同様に、日本語の文脈指示の「ア系」が話し手の感情移入などの語調を伴う用法と近似していると考えられる。

また、聞き手がいる場面ではあるが、「独言（独り言）」として使われている場合について見てみよう。

殷正が子どもの頃、義理の父親である「康震天」と母親の「趙嵐」が再婚した。殷正は母親が再婚したことに不満をもっており、義理の父親を受け入れられないため、二人が仲良くしているのを見て、康震天を後ろから隠し持ったナイフで刺そうとする。殷正が躊躇っていたため、気配を感じた康震天に振り向かれてしまうが、殷正が刺そうとしたことは気づかれていない。部屋に入ってきた母親も不審な様子に気づき、殷正は居たたまれなくなったため、家から飛び出してしまう。

(8) 康震天：正儿…。

「正ちゃん…」

(趙嵐が部屋に入ってくる)

赵嵐：正儿，怎么了？正儿！这孩子…。

「正ちゃん、どうしたの？正ちゃん！あの子ったら…」

(夫である康震天に対して)

赵嵐：行了。这孩子又犯倔了，让他自己出去安静会吧。想明白了，他自然会回来的。

「もういいわ。あの子ったらまた意固地になっているから、外で少し落ち着かせ

た方がいいわ。分別がついたら、勝手に帰ってくるわ」

《步步惊情》

例文(8)における趙嵐の最初の台詞の“这孩子”が発せられた時には、殷正は部屋から飛び出し、その場にはいない。聞き手である康震天はその場にいるが、話し手が思わず呟いた発言であり、聞き手に聞かせるために発した言葉ではなく、独り言であるといえる。

中国語の独り言については、木村(2012)によると、聞き手の存在がないことから、聞き手との相対的な隔たりが無くなり、対象がワレの領域内のものとして認識される傾向が強くなるとのことである。この場合は、聞き手が発話現場にいるにも関わらず、独り言として発せられていることから、話し手自身の領域内においては対象である息子のみが存在していると考えられる。即ち、「母親」として「息子」の方に意識が向かっているため、実際は発話現場にいる聞き手の存在が発話時には聞き手の領域内から無くなる。そのため、その場にはいない対象に対して“这”が用いられると分析できる。

木村(2012)は、このような話し手の対象に対する心理的領域について、「指示詞の選択を決定するのは、自分(すなわち話し手)と指示対象との間に感じられる物理的・心理的な遠近感であって、相手(すなわち聞き手)の存在は、この遠近の認識に影響を与える一要因であるにすぎない。その意味で、中国語の指示詞の運用はあくまでも自己中心的であると言える」と述べている⁴。すなわち、話し手自身の領域は任意的なものであると考えられるため、聞き手が発話現場にいたとしても、一部の発話においては話し手自身の領域を制限することができる。さらにその対象が発話現場に存在していなくても、話し手自身にとって心理的に「近い」存在であるため、話し手の領域内に対象が存在しているものとして認識され、独り言として扱われると推察できる。

インフォーマントによると、このような“这”については、母親が子どもに対する「(あの子ったら)仕方がないわねえ」等といった感情が含まれているとのことである。中国語においては、“这”は自然であるが、“那”は不自然であるとのことである⁵。これも、日本語の文脈指示の「ア系」の話し手による感情移入の用法に相当していると考えられる。

例文(8)における最後の趙嵐の発話は、聞き手である夫に対して発したものである。この後者の“这孩子”は、話し手と聞き手との両者の間で「共通理解」となっていることから、“这”が用いられており、そのため、「ア系」と対応していると分析できる。

例文(8)の発話場面における両者の“这孩子”は同一人物が同じ場面で発話しているにも関わらず、前者は独り言として、後者は聞き手に対して発せられている。即ち、同一の場面であっても、話し手が任意に自身の領域を拡大・縮小し、制限を加えていることが窺える。

以下の例文(9)も例文(8)と同様に考えられる。帰宅した康震天と趙嵐の会話である。康震天が趙嵐に息子である殷正が開発した化粧品を見せている場面である。

(9) 康震天：这个是你儿子让研发的，他说你用了以后永保青春。

⁴ 木村(2012) p.68。

⁵ インフォーマントは中国東北部出身の40代女性(大学教員)に依頼した。

「これは君の息子が開発したんだよ。使っていると若さを保てると言っていたよ」

(康震天から化粧品を受け取って)

赵嵐：这孩子...

「あの子ったら…」

《步步惊情》

例文(9)も例文(8)と同様に、対象である殷正は発話現場にいないが、話し手の心理的距離が「近い」ことによる発言であると考えられる。例文(9)の場合は例文(8)と異なり、母親として息子の心配りに対して嬉しさを感じたことによる独り言としての発話である。

次に、発話現場に話し手しか存在しない場合である「独言(独り言)」の例を挙げる。

「康司瀚」が問題のある取引先の工場に向かっているところである。オートバイの運転手との会話であるが、運転手が去ってからは康司瀚が一人で工場の入り口に徒歩で向かっており、独り言として発話している。よって、対象である「汪鉄成」はその場に存在していない。

(10) 康司瀚：师傅，我要去的是红莲生物化工厂。

「すみません。紅蓮生物化学工場に行きたいのですが」

司机：这就是红莲化工厂。

「ここが紅蓮生物化学工場だよ」

康司瀚：这是丹霞路二百八十五号码？

「丹霞路 285 番地ですか？」

司机：没错。

「間違いないよ」

康司瀚：给你钱。

「お代です」

司机：谢谢。走了啊。

「ありがとうよ。それじゃあな」

(運転手が去っていき、康司瀚が一人で歩きながら)

康司瀚：这个汪鉄成到底收了多少回扣啊？把生意交给这样的厂家。

「あの汪鉄成は一体いくら賄賂をもらっているんだ？こんな業者に取引を任せているなんて」

《步步惊情》

例文(10)は独り言というシチュエーションであり、話し手の他に聞き手などの参与者は存在していない。対象も存在していないため、この場合の“这”は日本語訳においては「コ系」は不適格となる。「ソ系」は話し手と聞き手の領域が対立している場合に用いられるため、独り言においては不適格となる。一方、「ア系」の使用については、聞き手が存在

していないため、話し手と聞き手における「共通理解」として用いられる「ア系」ではなく、「記憶指示」として話し手の記憶にある対象を指している。すなわち、日本語においては、聞き手の有無に関わらず、「ア系」は適格となることが分かる。この場合、「記憶指示」として話し手の記憶にある対象を指しているため、日本語の「ア系」が対応していると考えられる。

中国語においても同様に、対象が発話現場に存在していないが、話し手の領域外にあった対象を話し手の「思考内」に移動させたことによる発話であるため、話し手自身にとって心理的に「近い」存在となっている。すなわち、この場合も話し手の領域内に対象が存在しているものとして認識されていると分析できる。

IV. おわりに

本稿では、中国語の“这”と日本語の「ア系」との対応について、話し手と聞き手の間での「共通理解」という視点を主に用いた。また、話し手は自身の領域に対して制限を加えることができ、距離的に領域外にある対象を任意的に領域内（思考内）に移動することができる点について言及した。これにより、中国語においては発話現場に存在していない対象に対して“这”を用いることができ、日本語における「記憶指示」の「ア系」と対応できることを明らかにした。

以上の分析は、両者における「知識」や「記憶」に基づくものである。しかし、両者での話の食い違い（予測、誤解等）、話し手と聞き手の情報量の差といった点における使い分けについても考察を深めていく必要があると思われる。また、日本語は「コ・ソ・ア」の三系、中国語は“这”、“那”の二系であるため、両者の対応が複雑となっている点についても留意しながら分析を進めていきたい⁶。

付記

本稿は日中対照言語学会第41回大会（2019年5月19日、於明海大学）における口頭発表の内容に大幅な加筆・修正を加えたものです。当日、貴重なコメントやご助言を賜った方々に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 讃井唯允:中国語指示代名詞の語用論的再検討. 人文学報. 東京都立大学人文学部, 198:1-19, 1988.
- 2) 木村英樹:中国語文法の意味とカタチ—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究. 白帝社, 東京, 2012
- 3) 吉本啓:日本語の指示詞コソアの体系. 金水敏, 田窪行則・編, 指示詞 (日本語研究資料集:第1期第7巻), ひつじ書房, 東京, 1992, 105-122.
- 4) 日下部直美:日本語と中国語の指示詞に関する一考察. 星城大学研究紀要. 19:53-60, 2019

⁶ 場面やシチュエーションの設定の追加や変更による日本語の「コ・ソ・ア」と中国語の“这”、“那”の対応については、日下部（2019）を参照のこと。

例文引用

《步步惊情》全 35 話 2014 年

《芈月传》全 81 話 2015 年

《如懿传》全 87 話 2018 年